

神戸の地層解説

神戸の自然シリーズ
神戸の大地のなりたちと自然の歴史

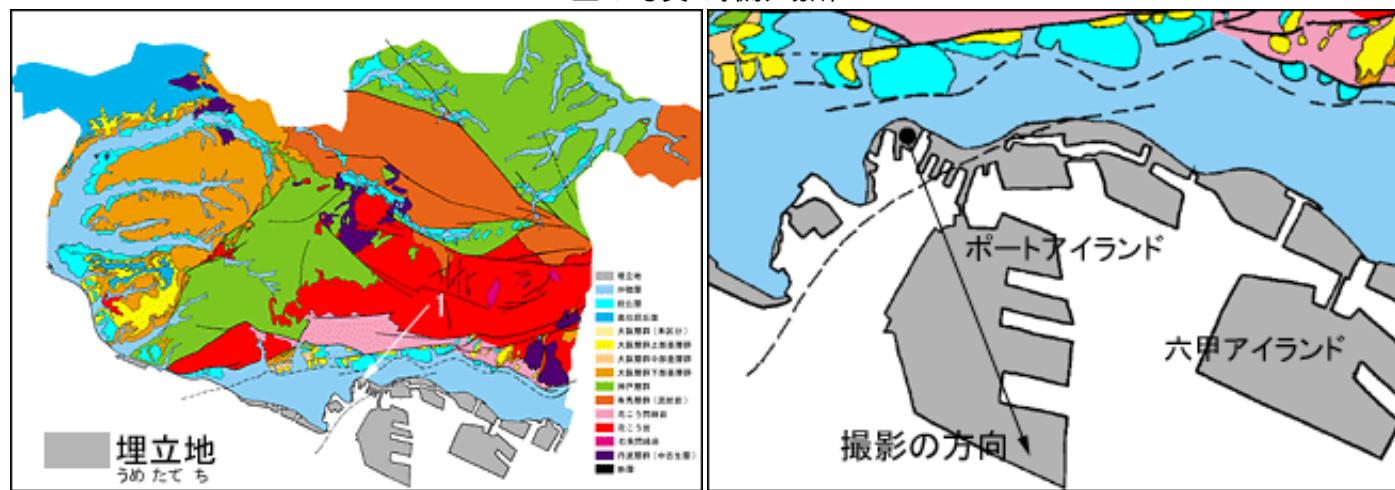
PDF

埋立地（うめたてち）

中央区ポートアイランド
神戸港やその先の海上にうかぶ人工島は、埋立地です。写真のポートアイランドもその一つですし、手前下に移っているメリケンパークもそうです。



上の写真的撮影場所



見られるところ

長田区、兵庫区、中央区、灘区、東灘区の海ぞいのところで見られます。

年代

明治時代から現在まで

説明

神戸市では、明治時代から海を土砂で埋め立ててきました。それまで海だったところに新しい土地ができます。とくに、昭和40年ごろからおこなわれた大規模な埋め立ては、「山、海に行く」といわれました。須磨区や垂水区、西区の山地や丘をけずりとって、平らにして住宅地をつくり、その土砂で海を埋め立ててつくられたのが、ポートアイランドや六甲アイランドなどの人工島です。人間がつくった地層ともいえます。



ハーバーランド
港湾設備のあるところはだいたいが埋立地です。



神戸港
遠くに六甲アイランドがかすんで見えます。



垂水区平磯の埋立地
垂水区平磯の埋立地です。海釣り公園や恋人岬のビオトープなどもあり、市民が気軽に利用できる施設があります。

| [もとのページにもどる](#) |

| [神戸の大地のなりたちと自然の歴史 メニューへ](#) |